

平成 29 年度北見工業大学第 5 回公開講座

Le Piège de "Kawaii"
「かわいい」

の罠

— Just The Way We Are

北見工業大学
准教授 春木 有亮

(地球環境工学科 / 地域未来デザイン工学科
基礎教育 / 地域マネジメント工学コース担当)

2017.10.14.sat 14:00 - 15:45

北見工業大学第 1 総合研究棟 2F 多目的講義室

かわいがりたいですか。 それとも、かわいがられたいですか。

「かわいい」—語源をたどれば古くは12世紀に使われたこの日本語の形容詞に、われわれは翻弄されてきたかもしれません。かわいいこどもに、かわいい猫、かわいいかのじょに、かわいいアイドル、かわいいかばんに、かわいいブラジャー。ときにわれわれ自身もまた、「かわいい」と言われます(*言われないひとも、います。)*。「かわいい」と言われてうれしいのは、「おんなのこ」だけではありません。おとこのこも、おばはんも、おっさんも、はては、おばんも、おじんも、こわもてのにいちゃんも、言われれば、悪い気はしません。

だれかに、なにかに、「かわいい」と言いたくなるとすれば、それはなぜでしょうか。「かわいい」と言われてうれしくなるとすれば、それはなぜでしょうか。

2006年、「カワイイは、つくれる」というフレーズがメディアに登場しました。花王社のヘアケア製品「エッセンシャル」の広告コピーであるこのフレーズは、製品とともに当時の20代にヒットし、やがて、製品から離れてひとり歩きするかたちで、人口に膾炙しました。

出発点は、2006年の広告映像。身長182センチ、体重79キログラム、のちにボクサーとなる「しずちゃん」こと、コメディアンの中崎静代(当時27歳)が、ぬぼうっと画面いっぱいに登場し、「カワイイは、つくれる」を謳います。「なんで、しずちゃんやねん!？」というつつこみを誘う、この意外なキャスティングこそがインパクトをもたらし、広告は成功するわけですが、そこには、「かわいい」ということばをめぐって、ある「罨」がしかけられています。

本講座では、いくつもの広告映像を分析しながら、画面にひそむ「かわいひの罨」を解きほぐし、同時に、そもそも「かわいい」とはどういうことなのか、を説き明かします。



話し手：

春木 有亮

はるき ともあき

1977年6月14日に兵庫県で生まれる。北見工業大学工学部准教授。専門は、美学、芸術学、デザイン論。日本のロックンロール・グループ、Recto Bersoのスタッフ。博士(文学)。本に、『実在のノスタルジー—スーリオ美学の根本問題』(2010年)、論文に、「カワイイは、つくれる」か——現代日本の美のイデオロギー(2015年)など。音楽作品に、《Nice To Love You!》(2012年)。第3回「KIKI:GAKU Of Seasons」大賞(2011年)、北見工業大学ベストティーチング賞(2013年、2015年)。

- 参加費 : 無料
 - 日時 : 10月14日(土曜日) 14:00-15:45 *遅刻、早退はご自由。
 - 会場 : 北見工業大学第1総合研究棟 2F多目的講義室
 - もうしこみ : 北見工業大学研究協力課地域連携担当
- 【TEL】0157-26-9158 【FAX】0157-26-9155
【E-mail】kenkyu09@desk.kitami-it.ac.jp

*もうしこみが14日当日である場合は、080-5337-9253(春木)に、電話でおもうしこみください。